

新型コロナウイルス情報 第3報「コロナ禍での技師会活動」

鹿児島県臨床検査技師会 会長 有村 義輝
元鹿児島市医師会病院 診療支援部 参与

鹿児島市医師会の先生方におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、日頃から鹿児島県臨床検査技師会の運営に際しまして、心温かいご理解とご支援を賜り心から感謝申し上げます。さらに、昨今のコロナ禍により社会活動が制限される中で、日々、医療の現場で新型コロナ感染対策に尽力されている先生方に深く敬意を表します。

さて、前々回の第1報、緑陰随筆特集号において新型コロナウイルス情報として細菌とウイルスの違い、新型コロナウイルス検査の種類、ワクチン等について掲載。前回の第2報新春号ではコロナ禍での感染症に係る対応策状況アンケート調査（入館チェックの内容）、感染拡大下の感染防護具着脱実習、さらにPCR検査等において検査の種類及び検査機器についてその内容を掲載いたしました。今回は第3報として、コロナ感染拡大の中、新たな技師会活動として、新型コロナ検査等が逼迫した状態になった時の検査対応・支援目的に、「新型コロナウイルス感染症検査等サポートチーム」を11月に立ち上げた旨をご報告いたします。立ち上げにおいては、県庁健康増進課、県立病院、県議会議員、県医師会との密な打ち合わせの中、ご支援、ご協力をいただきました。

サポートチームの立ち上げは、日曜日・祝

日（日中帯）に新型コロナウイルス感染症を疑う発熱患者等の診療を行う鹿児島県内の医療機関や施設等において、検体採取並びに検査支援を行うことが目的です。対象は日曜日・祝日（日中帯：概ね午前9時～午後5時）に新型コロナウイルス感染症を疑う発熱患者等の診療を行う医療機関（休日当番医含む）。支援内容はPCR検査に係る一定の講習を受講した臨床検査技師を派遣し、「検査（新型コロナウイルスPCR検査、抗原定量並びに定性検査及びインフルエンザ定性検査）」、「検体採取（原則、唾液並びに被検者自身の鼻腔ぬぐい）」等の支援を行います。検査技師の依頼方法は対象医療機関から、鹿児島県臨床検査技師会事務局へ連絡（専用様式：ホームページ掲載）をお願い致します。原則として10日前までに依頼をお願いしております。

派遣費用：日当5,000円（税込） ＊補償
特約付帯傷害保険を県臨床検査技師会で
対応する。

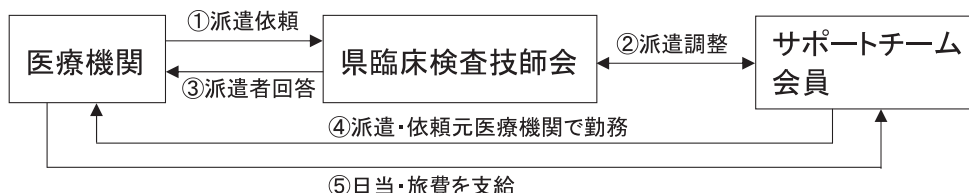
派遣日時や依頼する業務、検査機器の種類、
検査業務等についての連絡を頂きます。
問い合わせ・依頼先：鹿児島県臨床検査
技師会事務局

＊派遣依頼は、原則FAX又はメールにて実施

FAX：099-250-1039

Eメール：karingi@ari.bbqi.jp

【派遣スキーム】



件数としては昨年12月に3つの医療機関、今年5月に1つの医療機関にサポート、2つの医療機関からの相談などをいただきました。初めての試みでしたが、技師自らの検体採取そして検査に至るまで大変貴重な体験をさせていただきました。なお、現在もサポートチームの活動は継続中であります。

今後の展開として政府から、医療行為であるワクチン接種要員（担い手）を、医師・看護師に加え、特例で認めた歯科医師の他に、臨床検査技師と救急救命士にも拡大する方針が示されました。

打ち手条件は、2～3時間ほどの基礎・実技研修と接種場所を集団接種会場に特定すること等が阻却の論点になるかと思います。感染拡大の中、一日も無駄にできない緊迫した状況ですので早急に行政、関係団体に陳情し、

講習会開催に向けてのご支援・ご指導賜りますようお願い申し上げます。

以上、鹿児島県臨床検査技師会は必要かつ頼れる臨床検査技師として受動的から能動的体制へと積極的に取り組んでいきます。さらに、コロナ禍での社会的環境ですが、コロナウイルスとうまく共存し新しい生活スタイルを構築できるように、検査技師の医療技術を新生させ未来を拓く精神でこれからも前向きに活動してまいります。

結びに、検査を通して検査技師会としての機能を十分に発揮し、鹿児島市医師会の先生方の診療支援チームの一員として活躍できる臨床検査技師の育成に努めるべく、技師会活動を行う所存でありますので、より一層のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。